全日本教職員組合実習教員部

全 教	実教部ＮＥＷＳ	第 133 号 2024/2/5 発行

全国学習交流集会報

「e1　ecology（普通教科と実験・実習教育）」
「e2　education（職業教育と実験・実習教育）」
「e3　especially（障害児教育と実験・実習教育）」
「e4　essential（教科外教育と実習教員運動）」
「e5　ｅｎｊｏｙ（つれもていこら青年教職員！）」

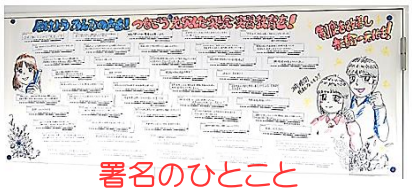
第 31 回全教実習教員部全国学習交流集会が 10 月 14 日～15 日の 2 日間、全国１９組織から高等学校・障害児学校の教職員 53 名が参加し、和歌山市で開催されました。

今年度のテーマ「集いあい・語りあい・学びあう」のもと、5 つの分科会に分かれてレポート発表、情報交換をおこないました。また、毎年好評の「e5 enjoy『つれもていこら青年教職員！』」を開設し、青年教職員に寄り添い、悩みや課題を共有し、解決する道筋を模索することができた分科会となりました。

魚住部長

まず、部長あいさつでは「全教実習教員部全国学習交流集会 in 和歌山へ北海道から長崎まで、多くの組織からの参加について大変感謝しています。開催に際し、和歌山高教組実習教員部のお力添えもあり盛大に開催できました。

私たち実教部は先輩方の運動を引き継ぎ、全国の仲間とともに運動を進め、教職員として誇りをもち日々奮闘しています。その一方、全教が昨年度実施した「勤務実態調査」から実習教員における働き方では、学校裁量や適材適所として扱われている実態が明らかになりました。また、特別支援学校では恣意的に配置されるなど、課題が山積されています。制限なく、矛盾なく、教育にかかわることが必要ではないでしょうか。今回、制度改革検討準備会をおこない、これまで培ってきた運動の歴史や実験・実習における技術や知識を継承していくことはもちろんですが、明日を担う若い世代へ働きやすい環境や実習教員部の運動は何かを考える温故知新の場になればと願います」とありました。開催地・和歌山高教組の石原執行委員長から、和高教・実習教員部の活動紹介や和歌山県のみどころなどを踏まえたあいさつがありました。


署名のひとこと

和歌山高
石原執行委員長

ｅ１　ecology　★アイディア満載実験室

参加者自己紹介の後、大阪高から日ごろ実験の中で工夫していることについて、レポート発表がありました。

手作り試験管ブラシの報告では、準備していただいたキットを参加者全員で説明をうけ、作成しました。実験台の水道にひっかけることができる工夫、試験管を洗うスポンジの部分は家庭科の調理実習で使用したスポンジをもらい使用していることなど、一本の試験管ブラシにさまざまな工夫がされていることが報告されました。

レポート発表の後は、日ごろ実験・実習で困っていることなどを交流しました。実験・実習では、「こまごまとした材料が必要となり、その調達にはお金が必要ですが、年々出金手続きが厳しくなり、急な材料の調達が難しくなっている」ことや、「家庭科の調理実習費の管理方法についての質問」、「新しい薬品庫を購入するがどのような薬品庫が使用しやすいか」などが交流されました。

参加者の皆さんの頭の中には、長年、実験・実習に携わり、積み上げてきた知識がたくさん詰まっていることを改めて感じた分科会でした。

ｅ２　education　★専門教科の課題を探る！

香川高から「映像制作を通した表現学習とメディア教育」としてデザイン科での授業の様子が紹介され、卒業制作やクリエイティブアワードに向けた制作など、グループワークを取り入れたユニークな実践が発表されました。

愛知高から「アーク溶接実習室の運用について」では「特化則」が改正されて粉塵濃度の測定やマスクフィットテストの義務化、資格を持った作業主任者を置くことなどが学校においても対象とされることが示されました。関連して青森高から追加資料をもとに「業務上必要な資格については労働安全衛生法等に基づき公費で取得させるべきことを明らかにし、県教委交渉のとりくみ」が報告されました。

さらに愛知高から「実験・実習における安全指導について」では安全対策の課題が報告されました。

工業分野を中心としたレポート発表ではありましたが、参加した皆さんから多くの質問や感想があり、時間が足りないと感じるほど活発に交流ができました。

ｅ３　especially　★共通理解が大事！

最初に、滋賀から「ライフワーク班でのとりくみ」についてのレポート発表がありました。重複障害クラスの農作業の作業学習では、「無農薬で野菜作りや食品加工等の学習を

おこない、校門前で一般の方への販売をとおして多くの人と接しながらコミュニケーションの力も養っているそうです。また、近くの子ども食堂に野菜を提供し、近隣の農業高校とトウモロコシやネズミ大根の栽培を通して交流するなど、子どもたちが重労働でも楽しいと感じられるよう工夫している」報告でした。

このようなとりくみには、教職員に農業や工業の教科の力量・専門性が必要であること、教諭との関わりの中で実習教員の「専門性」をどこまで発揮していいのか悩みながら実践していることも報告されました。

質疑応答の後、参加者全員が発言し、日ごろの悩みや勤務している学校の状況等を交流しました。校内実習での木製キーホルダー作りや実習中の安全衛生上の留意点等について、様々な実践や課題について共有できた分科会となりました。

ｅ４　essential　★制度改革を考える

大阪高から「大阪の実教部運動について」の発表がありました。2022 年 4 月から 2023 年 8 月までに計 10 回発行された「実習教員部ニュース」の中身は、実習教員部定期大会での年間総括と運動方針の決定、対府交渉に向けた要求の集約、教諭一元化と実習教員部運動の歴史についての学習、「実習助手」制度改革署名へのとりくみ、組織拡大をめざした新採歓迎会へのとりくみ、近高連実習教員部交流集会をはじめ全教実習教員部全国学習交流集会への参加による情勢の学習報告などがニュースとしてまとめられていました。大阪の参加者から「毎月 1 回開催されている実習教員部の会議では、できる範囲で和気あいあいととりくんでいます」と、持続可能な組合活動の報告がありました。

長野高からは「県交渉に向けた要求書・回答書」を丁寧にわかりやすくまとめた資料をもとに、理科実習教員の 2 級昇任基準の改善や、教育条件整備では耐用年数を超過した備品の廃棄・更新をおこなうための予算措置と、実験・実習に関する施設・設備の耐震化を掲げ、充実した実験・実習教育の保障に向けたとりくみが報告されました。

レポート発表後は、各組織の状況や制度改革についての活発な意見交換がなされ、教職員の長時間過密労働が大きな問題となる中、実習教員の職務内容における専門性から大きく乖離した、押しつけによる勤務実態が明らかになるなど、いまだに校務分掌における実習教員の位置付けが不安定であることがわかりました。全国学習交流集会で学んだことを、各道府県組織のとりくみの中で生かし、待遇改善に結び付けていく重要性を確認しました。

ｅ５　enjoy　　★つれもていこら青年教職員！

紀州弁（和歌山弁）「つれもていこら」とは、“みんな一緒にいこうよ！”という意味で、その言葉通り 14 日は宿泊ホテルで集合後、和歌山の観光地加太（かだ）へ向かいました。当日は雨となりましたが、加太の海沿いからは友ヶ島の見える絶景なロケーションの港町です。レトロな街並みを散策し、地域猫達にも癒され、帰りは黒いめでたい電車（かしら）に乗り、加太を後にしました。

15 日は基調報告の後、山口高からレポート報告があり、「定期考査の監督、ICT・一人一台端末、部活動の単独引率、呼称の問題について」の報告がありました。タブレットを利用しての会議やフルクラウド化など進んでいる県の様子、各学校や各県から実習教員のさまざまな問題について話がありました。また理不尽な業務などおこなうことも多いという報告もありました。実習教員部の運動をすすめていかなくてはと思いました。

△▽

プランナー•金坂常任委員

最後に全体集会（閉会）では、プランナーの金坂常任委員から「無事に皆様方のおかげで全教実習教員部全国学習交流集会 in 和歌山を終えることができ大変ありがとうございました。台風や感染症などにより開催出来るのか心配していましたが、なにごともなく、無事開催できてほっとしています。それぞれ思い思いに和歌山を満喫されたことでしょう。

来年度は 2024 年 10 月 13 日・14 日に新潟県で開催されます。米、酒、スキー場で有名な新潟県へ全国から実習教員が集い、実のある全教実習教員部全国学習交流集会 in 新潟を参加者の皆さんで盛り上げていきましょう。最後に新潟に来てくださいをご当地言葉で、“新潟へきなせや！”」と締めくくりがありました。